ともに芦

～「ともに」「つなぐ」小中一貫教育～
小城市立小中一貫校芦刈観瀾校学校便り
第13号　令和8年10月6日（火）
文責　：　副校長　　深川　治孝

授業参観・教育講演会



9月18日（金）、授業参観と教育講演会が行われました。お忙しい中、たくさんの保護者、地域の皆様に来ていただきありがとうございました。

今年の教育講演会は、元 J リーグクラブ通訳、TOMÁS SOCCER SCHOL 代表の前田知洋様をお招きし、下学年、上学年の子供たちと保護者様の 2 回に分けての講演をしていただきました。

テーマは、「生きる力」。1回目の4年生以下の下学年への講演では、ご自身の小学生のころの体験（家族とのよい関わり・教えや学校に行けなくなったことなど）。夢をもつことの大切さやそれに向けてのチャレンジ。好きなことを続けること。本当の友達とは？当たり前のことは当たり前でないこと。家族や身近な人の支えがあってこそ好きなことができる。今、そしてこれから生きていく（生活していく）ために大切なことなどを熱く伝えていただきました。



2回目の中学生を含む5年以上の上学年への講演会では、子供たちの近い将来に向けてのより詳しいお話でした。中学校卒業まで、どんな思いで不登校を続けていたのか、切実感のある家族や友達への思い。中学卒業後、20歳まで単身南米でプロサッカー選手を目指されたこと。サッカーだけでは生きていけないということで20歳から高校、23歳から大学に通われ、スペイン語、ポルトガル語を習得したこと。家族がとても喜んでくれたこと。サッカーと同じように語学を大学で一生懸命学んだこと。大学で自分だけ勉学に励むのでなく周りの仲間と共に高め合っていくことを学んだこと。準備の大切さ。社会は自分がしたいことやできることだけではない、積極的な失敗は人生で必要だと教えられたこと（フェルナンド・トーレスさんから）。視点をグローバルに。国籍は関係ない。今の自分があるのは家族や友達などの支えのおかげ。「生きる」ために何より大切なものは、「情熱」と「忍耐」。これら前田様のお話を、どの子も一生懸命に聞いていました。子供たちだけでなく、私たち大人にとっても「生きる力」の源は何か、と問い直す素晴らしい機会となりました。

地震津波避難訓練

9月29日（火）、全校での地震津波避難訓練が行われました。地震は、つい最近も熊本地方中心にあったことから、子供たちも身近なものに感じていたようでした。その際、有明海にも津波が来ることが分かり、今回の2段階避難も事前指導をしっかりと行いました。

しかし、前日までのあいにくの大雨の影響で、運動場避難を行わず、地震後の津波に係る高所避難のみ行いました。みんな静かに真剣に取り組むことができました。学校にいるときだけでなく、家やまちで遭遇したときに、どこにどう避難すればよいか、今一度お家で話し合ってください。







中学校駅伝競走大会壮行会

９月30日（水）、中学部の生徒集会の後に、10月９日（金）に行われます、小城多久地区中学校駅伝競走大会に参加する生徒の壮行会が行われました。生徒代表の力強い言葉、そして校長からの激励の言葉がありました。

まだまだ暑い中、参加する子供たちは毎日のように一生懸命練習に励んできました。学校代表としての責任と誇りをもって、もてる力を精一杯発揮してきてほしいと思います。




3年生総合「冬野菜を育てよう」

10月２日（金）、地域の「コスモス会」「むつ姫会」の皆さん、そしてJA女性部の方々に来ていただき、3年生による冬野菜の苗植え、種まきが「あしのこファーム」（学年園）で行われました。今回植えた（種まきした）のは、ダイコン・ニンジン・ホウレンソウ・サニーレタス・キャベツ・ハクサイ・ブロッコリー・ネギです。

ボランティアの方々の協力で畑の一部に防虫シートも掛け、一段と立派な農園になりました。冬野菜は、これから寒くなると大きくなりおいしくなるそうです。子供たちは、自分の担当の野菜を使った料理についてたくさん質問していました。収穫後はぜひ、ご家族で素敵な料理を作ってほしいと思います。





2・7年生「ボッチャ」体験

10月２日（金）、2年生と7年生の交流活動「ボッチャ」体験学習が体育館で行われました。「ボッチャ」とは、パラリンピックの正式種目でもありますが、2チームに分かれ、白の目標球に赤、青のボールをいかに近付けるかを競う競技です。

「ボッチャ」は、年齢、性別、障害の有無に関わらず、全ての人が一緒に競い合えるスポーツです。芦刈町の体協の方々に来ていただき、ご指導していただいた後、2年生と7年生が力を合わせて楽しそうに、そして真剣に体験していました。狙い通りに球を近付けられたら、チームみんなで一緒に喜んでいました。



